

### 3 1. シイタケ栽培試験 (2) 菌床栽培試験(その2)

桃澤邦夫

#### 〔目的〕

近年シイタケの生産において、菌床栽培が行われ生産量も増大しつつある。そこで栽培試験を通じて生産技術の向上に寄与する。

その一環として、収穫を終了した菌床に栄養分を水溶液にして補給し、いわば草木を栽培する際の追肥と同様にした場合、収量への影響を探る。

#### 〔方法〕

試験の概要は表-1に示したが、供試した菌床は前記の菌床栽培試験(その1)の①試験で10回の浸水操作を行っている1.2kgタイプのもの24個である。今回試験の実施に当たり、菌床表面にカビがみられるものもあったので、全部に70%エタノールを散布した。

処理は、前記試験の最終浸水操作日から19日後(開封から199日目)に通算11回目の操作の際にショ糖3%溶液に24時間浸した。この後、27日後(開封から227日目)及び69日後(開封から269日目)の2回にわたって市販の粉末の化学肥料(N:P:K=6.5:6.0:19.0)の1,000倍溶液に24時間浸した。処理した菌床は15°C-90%の蛍光灯照明下に置いた。

発生した子実体については、前記試験と同様に大きさ(LL～SSの5段階)、重量(生重乾重)、色見本シートを使用した傘の色彩の照合(対象生重3g以上)、その他必要事項を調査した。

#### 〔結果〕

子実体の発生量は浸水操作後の子実体の発生量を各回毎に集計し、1菌床当たりの平均乾重として図-1にまとめた。図-1において、開封から10回目の浸水操作までは前記試験の時の発生量であるが、開封直後が最も多く、4回目以降では低い状態で推移してきた。

本試験の該当範囲の発生量は各回とも、前試験で最低の発生量であった9回目と同程度の発生量しかなかった。このため特に差の検定は行っていないが、今回実施した試験の菌床の状態、すなわち一応の発生を終わり「疲れた」状態で、ショ糖3%あるいは使用した化学肥料の1,000倍溶液での養分補給では、子実体の発生促進に効果はみられなかった。

また、図-2に表示した菌床重量の変化についても、前記(その1)の①試験と異なった傾向はみられなかった。

表 - 1 菌床分補給試験の概要

項目区分	試料数	供試までの 浸水回数	ショ糖 3% 溶液 補給回数	市販化学肥料 1000倍液 補給回数	備考
使用済菌床	24	10	1	2	・使用した菌床は前記 エタノール散布試験（1回目試験）で使用済のもの ・今回供試にあたり表面を70%エタノールを散布し、カビ防除を実施
・供試菌床: 1.2kgタケブキ粉:コメカ=10:1(絶乾重配合), 水分湿量基準65%, 1.2気圧 120°C 60分滅菌 '95(H7).8.8 接種, '96(H8).2.23 開封発生操作, '96(H8).9.9今回供試前試験終了					
・浸水処理及び補給処理 今回供試前試験の浸水 1回目 8時間, 2回目以降24時間 補給処理 全回24時間 ショ糖3%溶液=開封から 200日目 化学肥料1000倍液=開封から 227及び 269日目					
・市販化学肥料諸元 窒素全量 6.5%(内 アンモニア性窒素1.0%, 硝酸性窒素5.5%) 可溶性リン酸 6.0%(内 水溶性リン酸 4.5%) 水溶性カリ 19.0%					

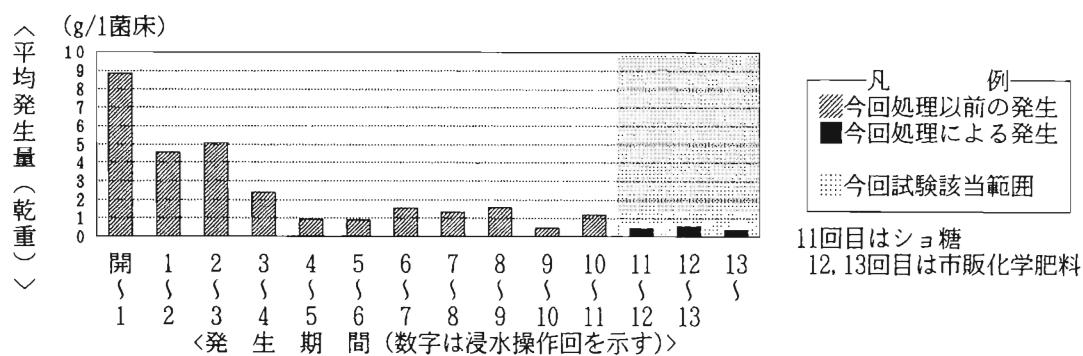


図 - 1 子実体の発生状況

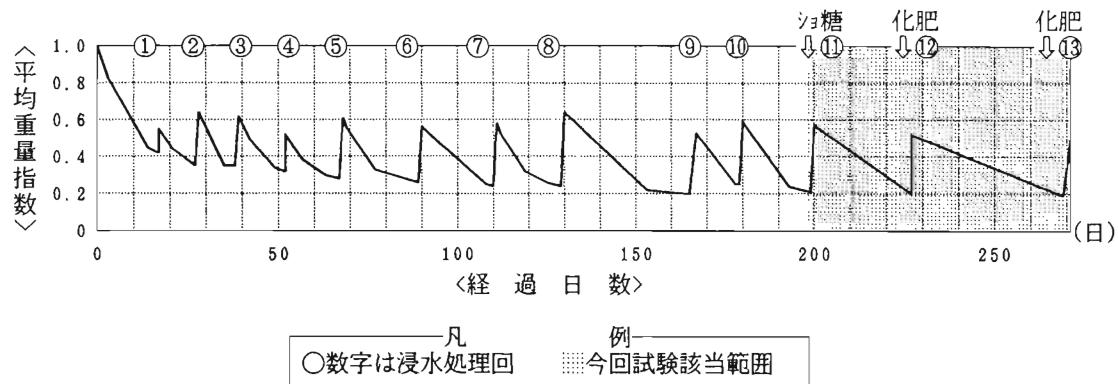


図 - 2 菌床重量の変化